

生活支援コーディネーター発行

地域の支え合い通信

麻生、篠路茨戸、太平百合が原、拓北・あいの里

地区版



2022年

6月

第19号

改めまして

生活支援体制整備事業とは…?

ひとり暮らし世帯や支援を必要とする高齢者が増加する中、困った時には、制度やサービスだけでは解決できない、ちょっとした手助けが必要なことがあります。例えば、電球の交換、荷物の移動、買い物などです。そのような時でも地域の中に「それだったら、手伝えるよ」という人がいるかもしれません。地域みんなで声を掛け合い、支え合うことができれば、地域に住む人の困りごとを地域の中で解決でき、誰もが住み慣れた場所で安心して暮らしていくことができます。そういった地域の支え合いを進めていく事業が、生活支援体制整備事業です。札幌市では、平成29年から実施されることとなりました。

これらは、昨今、第2地域包括支援センターに寄せられた困りごとの一例です

電球の交換、家具の移動、高い所のものを移動、引っ越しの時のゴミ出し、大型ゴミを外へ出す、窓ふき、衣替えで2階から1階へ衣類をおろす、庭の手入れ、除雪、通院の同行、話し相手など…



自分も近い将来、困りごとが出てくるかもしれないな…

私にもお手伝いできることがありそうだわ



元気な人は支える側になることで、介護予防にも繋がります！！

生活支援コーディネーターが

お手伝いさせていただきます



地域住民をはじめ、民間企業やNPO、ボランティアなどの多様な主体が協力し合い、みんなで支え合う地域づくりを、生活支援コーディネーターがお手伝いさせていただきます。サロンや老人クラブなどで事業のご説明をさせていただきますので、お気軽にご連絡ください。

支え合いのある風景～地域に根ざしたお店の取材をさせていただきました

美味しいお惣菜のある便利なお店

太平百合が原地区にある「ショートストップ太平」(北区太平4条5丁目)は、太平百合が原地区で23年間地域の方に愛されているお店です。野菜や生花、パンやお菓子にお酒、切手、クリーニングなど生活に必要な物がそろいます。取材のために訪問した日は、新鮮アスパラの地方発送も行っていました。お弁当コーナーでは、高齢になり調理が難しくなったお得意さんのリクエストで、ブロッコリーやカボチャの塩ゆで、きんぴらごぼうなど、健康を考えた家庭的なお惣菜が並びます。取材の最中にも、地域の高齢者が何人も買い物に来ていましたが、足が悪くなってきた方も多そうで、配達も増えたそうです。お菓子コーナーでは駄菓子も並び、近所の子どもたちが買いに来ます。かつて来ていた子どもたちが大人になって、お店に買い物に来ることもあるそうです。地域の方に思いを寄せて営業されている「ショートストップ太平」に、地域の支え合いの姿を見せていただきました。



店先では野菜やお花の苗も販売



煮物など家庭の味も並びます

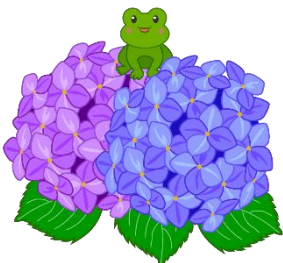
何度でも聞いていい、スマホ相談室

篠路まちづくりテラス和氣藍々(北区篠路4条9丁目)では、スタッフのヒロキンさんとジョーさんによる「何度でも聞いていいスマホ相談室」が開催されています。このスマホ相談室は、お食事のついでに、スマートフォンの使い方わからないことを聞くことができます。一緒に操作をしながら、何度でもゆっくり教えてくれます。「何が苦手で、何が分からないか教えてくれたら、何回でも教えます。」と心強い言葉をいただきました。



ジョーさんとヒロキンさん

地域の高齢者が安心して暮らせる町に★★★みなさまの取り組みをお知らせください。



【お問い合わせ・ご連絡先】

社会福祉法人 札幌市北区社会福祉協議会
札幌市北区北24条西6丁目 北区役所1階 ☎757-2482
担当) 生活支援コーディネーター 村井田